

献堂 70 周年記念  
Since1955  
**祝**  
2025 August 15

## 聖母マリアさまをお迎えして

皆さんの愛に包まれてグロッツのある風景を創る

### 母である聖母マリア様のグロッツ

ランディ神父 (フィリピン宣教会)



2021年10月8日、江口さんから電話をいただきました。彼は「今の家は大きすぎるので、小さい家に引っ越そうかと考えている。でも、家の前の通り沿いにある聖母像だけは、そのまま置いてほしい」と話して下さいました。私は翌日、福知山から車で出かけ、郡山までその像を見に行きました。聖母と御子の美しいお顔を見て、私は「これはぜひ欲しい」と申し出ました。

というのも、登美ヶ丘にある家のフィリピン宣教会の本部の庭にグロッツ(マリア像を祀る小聖堂)を作る計画があったからです。

江口さんはとても喜びました。かつて自分の誇りと、信仰の象徴であった、大切な像に新たな居場所ができたことが嬉しかった、とのことでした。

彼は、亡き奥様とともにこの像を通り沿いに設置し、横には掲示板を設置して聖書の言葉や教会に関する記事を掲示していたんですよ、と話して

くれました。これは夫婦の福音宣教の方法だったそうです。

この像は何十年もの間、家族で大切に管理され、多くの通行人を惹きつけてきたのです。私は一人ではその像を移動できなかったため、アントン神父と平井雅子さんに相談しました。平井さんは岡園さんに手伝ってもらおうように提案してくれました。

10月11日(金)、アントン神父とクレーン車を持った岡園さんと一緒に江口さんの家に向かい、像を引き取りました。像には200〜300キロのコンクリート台座がついていたため、まずは岡園さんの家に像を運んで下さるようお願いしました。10月17日(日)の午後、岡園さんが像を登美ヶ丘の幼稚園の駐車場に運んでくれました。そこでは江口さんとその友人たちがコンクリートを取り除くために待っていてくれました。像は長年、雨や日光など様々な環境にさらされていたため、かなり汚れていました。私は聖母像を洗ってあげることにしました。漂白剤を使い、司祭館のバスタブで一晩浸け置きました。

その年の12月初旬、像の移転から1ヶ月ほど経った頃、江口さんから再び電話がありました。ついには家が売れたそうです。「聖母マリア様が助けてくれた」と彼は言っていました。

ではなぜカトリック大和郡山教会に落ち着いた

のか？

一方、2012年に大和郡山教会の司祭館に住み始めた時から中庭のマリア像が気になっていました。シスターポーリンと話をし、マリア像の上にバラのアーチを付けようと決めていました。福知山から帰ってきて、マリア像に再会した時、その像があまりにも小さく、雨にさらされ劣化していました。私の思いは、もう少し大きいマリア像とグロッツへと膨らみました。

登美ヶ丘の本部のリビングで、私はどこでどうやって新しい像を手に入れようかと考えながら書き出していました。ふと顔を上げると、江口さんからいただいた美しい像が目に入りました。まるで「私を連れて行って」と語りかけているかのようでした。そして、郡山への旅が始まりました。

私はこのプロジェクトに個人的な思いを込めたかったので、2024年11月の休暇中に、郡山のグロッツ計画の前段階として、小さなグロッツを作りしました。今回も岡園さんに助けをお願いしました。

プロジェクトが始まると、多くの人々が温かく支えてくれました。最初から力になって下さった登美ヶ丘教会の岡園さん、富雄教会の不殿初子さんは、自分の庭の石を惜しみなく提供してくれました。佐賀さんはお菓子を持って来てくれました。阪井さんご夫妻はバラの花を提供してくれました。そして郡山教会の信徒の皆さんは小石の掃除や他の支援をしてくださいました。

このことから分かるのは、たとえどんなに不可能に思っても、神を信頼し、私たちが神の道具となれば、神にとって不可能なことは何一つないということです。

神に感謝！ Thanks be to God!

# 「神の御母聖マリアゲロット建立」に携わって

登美が丘教会 信徒 ラファエル岡園 伝



建設作業中の(右)ランディ神父と岡園さん

私はカトリック大和郡山教会に40年ほど前、大変お世話になりました。若かりし頃、妻と二人の娘らと熱心に通った思い出深い教会です。

今回、不思議なご縁でランディ神父様とマリア石積み祠を作ることになり感謝いたしています。皆様ご承知の通り、今回設置のマリア像は、今は亡き江口様ご夫妻が自宅玄関前に大切に祀られていた御像です。

この御像は通常の像より一回り大きく、台座に100キロ超えのコンクリートで固定されています。

人力ではどうにもならず台座にロープをかけ、クレーンで台座ごと引き抜きました。その後、私の山の家に1か月ほど宿泊され、江口様の手配により台座の切り離し作業がカトリック登美ヶ丘教会で行われました。切り離し作業後、今は亡き平井様が丁重に入浴を施され、きれいなお姿に変身されました。

そして神の思し召しでしょうか、最後には亡き江口様ご夫妻の教会にお帰りになりました。

石積み祠工事(造作)に関しては、少々の地震が来ても倒壊しないように、外観からは見えない位置に縦横筋を入れ、石と石を完全につなぎセメントで固定しました。

デザイン、前庭、照明など苦心しましたが、立派な石積み祠が完成して嬉しく思います。

今後、マリア様はこの地で末永く皆様のために祈りしていただけることでしょう。

## 父と母が愛した聖母子像の歩んだ道のり

江口 晋(西地区)

この度、神の御母聖マリアの洞窟に安置されることお聞きし、聖母子のたどった道のりを投稿させていただきます。



故江口紀呉さん(右)  
故江口ヒデ子さん(左)  
=江口さん提供



ていだけ感謝申しあげます。城町の旧宅の玄関に、聖母子像の安置を強く望んだのは、亡き母でした(2013年帰天)、亡くなる数年前から療養して

おりましたが、ベッドでの生活続く中で、玄関に大きな聖母子像を立ててほしいと強く望み、私の従兄の協力も得て安置することに、そして毎日ロザリオを繰る母は大変喜び、一時期病状も回復し、車

いすで郡山教会を訪問できたことが忘れられませんでした。

その後、亡き父(2023年帰天)が、一軒家内での転倒等が続くようになり病状も悪化する中、郡山駅近くのマンションに引っ越しすることになり、旧宅の聖母子像を、ランディ神父さまのご配慮で神父様の修道院へ移すこととなりました。その際、岡園さんや従兄に大変お世話になりました。この度、聖マリアの洞窟に安置されることとなり、きつと天国の両親も喜んで(喜んでる顔が浮かびます)と確信しています。

聖マリア様の洞窟、それは教会の信徒の守り場です。苦しいとき悲しいときその洞窟で癒されるときともに、私たちの天の父を賛美し「アバ父よ」と涙ながらに叫ぶことができることはなんとすばらしいことかと強く感じております。



これまで私たちの祈りをお聞き届けくださったマリア様に、感謝します=教会中庭の先代聖母マリア像